

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<p>自進力！西富 ～実感・共感・主体性～</p> <p>【実感】 ・体験的な活動の充実を図り、実感を伴った理解につながる学びを目指します。(知) ・自分とつながる様々な人やものとかかわりながら、自分のよさを実感する力を育てます。(徳)</p> <p>【共感】 ・授業の中で互いの意見を認め合いながら学ぶ態度を育てます。(知) ・身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切に、豊かな感性や思いやりの気持ちを育てます。(徳)</p> <p>【主体性】 ・規則正しい生活や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ・地域に愛着をもち、自分ができることを進んでしようする態度を育てます。(公) ・多様な人とのコミュニケーションを通して視野を広げ、持続可能な社会の創造に向け行動しようとする態度を育てます。(開)</p>
--

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<p>実感する力 共感する力 主体的に取り組む力</p>	<p>具体化した資質・能力</p> <p>人・ものと関わろうとする姿勢 思いや考えを伝え合う力</p> <p>主体性・積極性 よりよい社会の実現を目指す態度</p>
--------------------------------------	--

中期取組目標

○「自分の成長を実感しながら主体的に学ぶ子の育成～学び方の工夫と教師のみとりの改善～」を目指し、授業改善を進めます。

- ・どの子ども安心して自分らしさを発揮し、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに取り組みます。
- ・子どもの思いや願いを生かしながら、協働して主体的に問題解決をしていく授業づくりに取り組みます。
- 子どもたちが自他のよさに気づき、思いやりの心をもってよりよい人間関係を築こうとする姿勢を育てます。
- ・身近な自然や様々な人とかかわり、本物に触れる活動や体験を大切に、心豊かな学校生活を送ることができるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
<p>授業改善</p>	<p>これまでの横浜市学力学習状況調査のデータを分析し、研究の効果を合わせながら本校の教育課題に取り組む。また、子どもの思いや願いを踏まえたカリキュラムづくりを国語科を中心に継続して進めていく。①重点研のテーマを「共に学び合う子の育成」とし今年度は、新たに全学年、国語科で研究を行う。「共感性」を授業改善の主軸において授業改善に取り組む。②研究授業を通して、「子どもがいきいき動き出す言語活動」にするための手立てについて検討と検証をしていく。③教師の教育技術や個のみとりと集団での話し合いのコーディネートについても合わせて研究を進めていく。</p>
担当	重点研推進

学力向上に関わる本校の状況

・横浜市の学力学習状況調査の結果では、学力、学習意識、生活意識上、概ね横浜市の平均を3学年以上上回っている。

・学年が上がるごとに学力の向上がみられる。

・学力調査では、どの学年も横浜市の平均よりも学力層が高い割合が多く、学力層が低い割合が少ない結果となっている。

・本校の特徴として、学力層が高くて、「学習することが好きですか」という調査と比較していくと、好きと嫌いの割合が二分する傾向がほとんどの学年でみられる。

・学習に進んで取り組み、進んで考えたり、発表したりしているという項目が他と比べて、ネガティブな自己評価をしている層が減少してきているのは、発言をしていない子や、表現が得意ではないと捉えている子とみどり、粘り強く授業改善に取り組んできた成果といえる。

・近年は、平均値が上昇している学年が増えている。これは、これまでの研究や職員の努力の結果だと捉えることができる。特に、下がっていた学年が上昇傾向に転じたり、学習意識が向上したりしている。

・学習意識調査の中で、全体的に横浜市の平均を若干上回る傾向にあるが、一部の学年で極端に下がっている学年も存在する。今年度もその学年を上昇させながら、意欲を高めていけるかが課題となる。同時に学校教育目標の「共感性」に関わる分野で、課題がある。

今年度の目標

授業改善、指導力向上に取り組むことで、「共に学び合う子の育成」を目指す。また、「子どもがいきいきと動き出す言語活動」を研究することで、子ども同士が言葉を通してかかわりあう深い学びを実現した学力の向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

<p>上半期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を重点教科として取り上げ、対話的で深い学びの実現を図る。 ・すべての子どもたちが互いに学び合う学習集団作りをする。 ・討論や話し合いなどの対話的な学びを重視をする。 ・子ども自身で学習の調整をしたり、自己決定ができる環境や学習の仕方を研究する。 ・学校教育目標の実現を研究の主軸におき、特に共感性と関連付けながら、子どもの実態にそくして教師の課題を設定をする。 ・これまでの研究を進めてきたことをもとに、課題と成果を分析整理し、授業改善、子どもの資質能力向上を目指していく。また、職員からアンケートを実施しその内容を分析していくことで、その効果を検証していく。 ・学力学習状況調査や本校での独自のアンケート結果の集積などのデータを使いながら、分析し、目標設定の見直しや授業改善にいかしていく。
<p>下半期</p>	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
<p>道徳教育</p>	<p>①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にする思いやりの心情を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようにする。</p>
担当	道徳推進教師・道徳

豊かな心に関わる本校の状況

・本校は閑静な住宅街の中に位置しており、家庭や地域からは、学校の教育活動に対して高い関心と大きな期待が寄せられている。また、家庭の社会規範意識も高く、児童への期待も大きい。

・これまでの横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の結果から、好奇心旺盛で、学習に取り組む意欲は高く、いろいろな活動に積極的に取り組もうとする姿が見られる。

・タブレットやパソコンを使って、自分の考えをまとめたり、作品や発表資料等を作ったりすることができる反面、「自分の考えを、相手に分かるように伝えたり、相手の立場になって、その人の気持ちを考えたり」というところに課題が見られるなど、自分たちの力で話し合いを通じて問題解決していくことに課題がある。

・子どもたちは高齢者や下年齢の子に対して優しい心遣いが感じられるが、「うれしそうな人や楽しそうの人が近くにいると、自分もうれしくなったり楽しくなったりする」というところにも課題が見られ、自己肯定感やコミュニケーション力、共感する力に課題が見られるといえる。

・自分の力に自信をもてない子や自己肯定感を確立できていない子が、自分の思いを相手に分かりやすく表現することが苦手なために、トラブルになることもある。

・こうした中で、西富岡小学校では、友だちどうしのかかわり合いの中から得られるコミュニケーション能力や、自分で体験したのから確かな力を身につけてほしいと願っている。

・子どもたち自身が、自分や、自分の考え、想いが大事にされたという経験をもつことで、他の人にも同じように接することができるようになり、人の気持ちによりそ心が育つと考えている。

・今年度も継続して区社会福祉協議会、所管の地域ケアプラザと協働して体験的な学習に継続的に取り組む。その中で他の人に想いを馳せる経験をして、違いを認めたり共感したりする力を育みたい。

今年度の目標

子どもたち一人ひとりが互いを認め合うこと、また、自分のしていることが他の人から認められ役に立ったと感じたり、希冀されたりすることで、自分のよさを見つけたり感じたりすることができるようにするとともに、他者との違いを認めたり他者と共感したりする力を育みたい。

目標を実現するための具体的行動プラン

<p>上半期</p>	<ul style="list-style-type: none"> 《道徳科の取組》 ・子どもが道徳の見方・考え方、感じ方を多様に広げ、自分ごととして学んでいくようにする。 ・全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。 ・懇談会などを通して道徳の授業について話をし、家庭との共通理解を図る。 《他教科での取組》 ・別業を活用し、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。 《たてわり活動》 ・5年生および6年生がリーダーとなってたてわり集団活動を行い、高学年のリーダー意識と自己有用感を高めるとともに、各学年が自らの役割を果たして活動することを通して、互いを思いやる気もちや協力しようとする気もちを育てる。 《あいさつ活動》 ・委員会活動を中心にあいさつ活動を行い、自ら進んであいさつができるようにする。 《人権福祉教育》 ・人権キャラバン・福祉教育を通して、自他の命の尊さや思いやりの心など人権尊重意識を養う。
<p>下半期</p>	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
<p>健康教育</p>	<p>①体力テストの結果を分析し、本校児童の課題をとらえ、その課題に合った運動習慣を身に付けることができる取り組みを運動委員会等を中心として設定する。また、金曜日の中休みを「運動タイム」として設定し、ミニマラソンやなわとび、おにごっこなどの取り組みを生かして、さまざまな運動や遊びに触れる機会を作り、児童の体力向上を目指していく。</p> <p>②生活・学習意識調査の心に関する項目の結果から「心の健康」について学校保健委員会等を通じて取り組んでいく。</p>
担当	体育・保健・食育

健やかな体に関わる本校の状況

・高学年になるにつれて、体力・運動能力や生活実態の項目が下降していく傾向がある。

・「睡眠時間」や「運動時間」の項目で、横浜市全体と比較して短い傾向がある。

・新体力テストの結果より、走の運動が低い傾向にある。

・体育の授業では、場の設定を工夫して、運動量を確保しようとしている。

・休み時間は外遊びをする児童が多いが、個人差があり、内遊びに偏る児童もいる。

・給食は、好き嫌いを減らしてしっかり食べるように指導しているが、学級または個人により差がある。

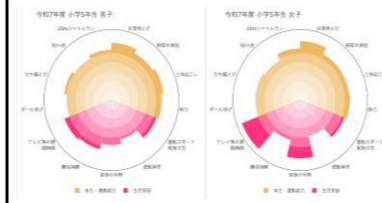
・保健学習では、自分の生活と関連付けて見つめ直す機会を設けている。

・学校保健委員会での活動を生かして、こころの健康に取り組んでいるが、まだ自分ごととしてとらえられていない。

・学区には大小様々な公園があり、放課後体を動かす遊びをする児童もいるが、習い事等で遊ぶ回数が少ない児童もいる。

・地域には、ソフトボール、サッカーなどのスポーツクラブがあり、運動が好きな児童が所属している。また、スイミングスクールに通う児童が多い。

・睡眠、食事、歯磨き等、多くの児童は健康的な生活習慣が身に付けられている。



今年度の目標

運動の習慣をつけることを通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けることにより、体力の向上と心身の健康の保持増進を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

<p>上半期</p>	<ul style="list-style-type: none"> 《体育科の取組》 ・運動に親しむ態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 ・体育科では、児童が自らの課題を把握し、めあてをもって活動できるよう、教師が授業内容やワークシートを工夫し、児童が互いにアドバイスをしたり、話し合って考えを共有したりできるような学び合い、高め合うことができる態度を育てていく。 ・保健学習で健康な生活習慣や自分の体へ変化などについて学び、健康を維持する態度を養う。 《他教科での取組》 ・心身ともに健康な生活を実践する態度を育む。 ・食育や学校保健委員会、保健学習と連携を図り、体力向上や心身ともに健康な体をつくるための生活習慣に結び付ける。 《特別活動》 ・各委員会で、健康に関する企画を計画し、全校で健康に対する関心を高める。 ・運動タイムでは短縄、長縄、マラソンを計画し、楽しみながら運動する習慣を身に付ける。 ・夏の暑い日にも体育館を学年ごとに開放し、遊びを通して運動できる機会を増やす。
<p>下半期</p>	